

# Fika

[フィーカ]

スウェーデン語【お茶の時間、お茶をする】

ex:お茶にしませんか？

スウェーデン独自のコーヒーブレイク。コーヒーを意味するKaffeがひっくり返ってFikaになったと言われている。コーヒーと一緒に軽いパンやお菓子がセットになることが多く、スウェーデンの人々が大事にしている、心を通わせ合う時間。もちろん一人でのフィーカもOK。



## 「お茶にしませんか？」

スウェーデンに行くと、“Ska vi fika (スカ ヴィ フィーカ)?” お茶にしませんか?という言葉を色々な場面で聞く。そしてコーヒーと甘いお菓子のある、楽しい時間を過ごすのだ。

家でも、仕事場でも、平日でも週末でも、どんなに忙しくても、フィーカを欠かさない。たとえ仕事上の立場が違ったとしても誰もがフラットに「仲間」としての会話を弾ませる。そこで生まれた人間関係や活力、アイデアが、今のスウェーデンを作ったと言っても過言ではない。

それほど、フィーカは暮らしの根っこにある。

国民全員が何より大事にしている習慣が、誰かとお茶をすることだなんて!

でも、日本にだって同じような時間がある。縁側で、お茶の間に、日本茶を飲みながらおせんべいを食べるじゃないか...? そんなことを考えていたら、旅行帰りのご近所さんが、お菓子を持ってやって来た。“Ska vi fika?” 私らもフィーカを、楽しむことにしよう。

  
[ミューク]  
mjuk

日々の暮らしにフィーカを取り入れるアイデアはミューク スペシャルサイトでご覧いただけます。



ミューク スウェーデン

